

西日本豪雨による大規模な被害を受けた地域に、全国の民医連職員が支援に駆けつけました。今回私は、土砂流で甚大な被害を受けた広島県坂町小屋浦地区に災害支援に入りました。広島市南東に位置するこの地区では大雨により「まさ土」と呼ばれる砂が山から流れ込み氾濫し地域を破壊しました。

自衛隊、消防、警察が決死の安否不明者の捜索、インフラの整備をする中、民医連は被災世帯の片付けの手伝いを主に行いました。

住宅の一階部分が土に呑み込まれ二階からのアクセスしかできないため、まず玄関を掘り起し、窓ガラスの砂をどけ、上下水道を探す作業をしました。

まさ土は砂のようで、掘っても掘っても崩れてきて、なかなか作業は進みません。

さらに40度近いの猛暑のために、マスク、ゴーグル、長靴ゴム手袋長袖長ズボン etc・・・の重装備で体力を削られ休憩を取らなければすぐに熱中症になってしまいます。

時間はあっという間に過ぎてしまい、想像していたより作業が進まなく悔しい思いをしました。

今回参加県連は福島、埼玉、神奈川、愛知、大阪、兵庫、鳥取、熊本、宮崎、奈良、広島と全国からいち早く有志が集まりました。

今後、震災関連死など未然に防ぎ、早期の復興と息の長い支援を望みます。



埋まった住宅 手前の砂浜は全て氾濫したまさ土の土砂



掘って掘って掘りまくって玄関を採掘する。途中自転車など異物に行く手を阻まれる



作業終了後の筆者、この後夜行バスで帰宅



川の水で砂埃を落とす 崩落場所多数。危険！！